



神籠石列石

昭和45年、神籠石列石がこの地で発見された。今日の鬼ノ城への第一歩だった。幾多のときを経て、調査と整備は進み、壮大な城壁と門がそびえ立ち、草木が息づく豊かな自然がある。鬼ノ城は、見て触れて、楽しめる野外博物館。

特集 鬼ノ城 豊穣の頂

いただき

鬼ノ城

鬼ノ城は、鬼城山の山頂一帯を一周約2・8kmの城壁で囲んだ古代山城です。城内の面積は約30ヘクタール。東西南北それぞれにある城門をはじめ、6つの水門や角楼(防御施設)など、当時の遺構がよく残っており、わが国のなかでも、屈指の堅牢な構造をもっています。第0水門を少し東に行ったところで神籠石列石が昭和45年に発見されました。これが今日の鬼ノ城の始まりです。昭和53年の学術調査では全体の規模や構造など、平成6年から10年までの市の発掘調査では城門や水門、角楼などの様子が明らかになりました。

平成13年、鬼城山環境整備基本計画に基づき、歴史と自然のフィールドミュージアム(野外博物館)として整備がスタート。城門の一つ西門が平成16年に、平成18年には角楼が、そして城壁もほぼ完成した今、壮大なスケールの山城の様子を知ることができるようになりました。市街地にも近く、眺望もよい鬼ノ城。貴重な動植物も多く、歴史のみならず、自然、景観などがそろった、他にない卓越した空間であることも大きな特徴です。時候のよい週末ともなると、多くの人が山城を目指しています。

総社市のシンボルは、文化財や歴史面のみならず、観光、自然、まちおこし活動など多方面で、豊かな実りを生み出してきました。文化財や自然、環境の相乗効果により、これからもたわやかな実をまだまだ実らせていくこととしましょう。



■鬼ノ城整備のあゆみ

平成13年度	遊歩道の整備、学習広場や解説版の設置
平成14年度	高石垣(西門の東側)の修復
平成15年度	西門の復元と角楼の復元整備。高石垣から第0水門までの土塁を修復復元
平成16年度	鬼城山ビジターセンター建設開始。角楼上面床と手すりの設置
平成17年度	鬼城山ビジターセンターオープン。西門周辺の整備。角楼の土塁の復元
平成18年度	北門の整備。西門周辺の城内側の敷石整備
平成19年度	高石垣から第0水門までの土塁の修復復元
平成20年度	高石垣から第0水門までの土塁の前面の敷石など遊歩道の整備。土塁上への板塀を整備
平成21年度	高石垣の西側の土塁を修復整備。土塁上への板塀を整備。城内の敷石整備
平成22年度	西門東側の土塁を修復復元。土塁の板塀と敷石整備。遊歩道の整備